

# ハンドボール日本リーグの維持・発展に向けて

## The ways to keep and develop a handball league in Japan

1K06B095

指導教員 主査 武藤泰明先生

牛腸 万里英

副査 原田宗彦先生

### 【研究背景・目的】

2009年1月26日、ホンダがハンドボール部の日本リーグ撤退の方針を発表した。撤退の理由は、経費節減の一環であると新聞各社は報じた。しかしホンダハンドボール部は1960年に創部され、過去8度優勝の実績をもつ強豪・名門チームである。日本代表も多く輩出しており、撤退前は10チーム中6位につけていた。野球部やラグビー部などほかの競技部はこれまで通り活動を続けるなか、なぜハンドボール部だけが撤退することとなったのか。ホンダに他のチームがホンダに追随すれば、日本におけるハンドボールの競技力低下は免れない。

本研究では、撤退したチームと今尚存続しているチームの現状を理解することから、日本リーグを維持・発展させるためにハンドボール界が取り組んでいくべき課題を明らかにし、その解決方法を探ることを目的とする。

### 【研究方法】

#### 1. ホンダハンドボール部日本リーグ撤退要因の検証

・ホンダの保有する8つの部の比較：8部について複数の視点から比較を行った。この結果、競技力・生産製品と競技の人気地域という点でハンドボール部は他の部よりも撤退要因を含んでいたものの、決定的な要因は見当たらなかった。

・ホンダ同様、世界同時不況で打撃を受けた輸外型産業各社のスポーツ支援動向を検証：スポーツチームを複数保有するホンダ・トヨタ・日

産・東芝を研究対象とした。4社は一様に保有目的を「福利厚生」や「一体感の醸成」とし、予想していた「宣伝広告」や「社会貢献」という回答は少なかった。福利厚生は当然雇用を前提としているため、不況に際し正社員の雇用削減に踏み切った企業は、社員へ理解を求めるという意味もこめてチームを休廃部しているということが分かった。ただ、唯一当てはまらなかったのはホンダハンドボール部であり、ここでも規模縮小の要因を明らかにすることはできなかった。

#### 2. 日本リーグに加盟する他チームの現状を知り、日本リーグの課題を見出す。

##### 事例1 企業スポーツ...大崎電気工業

大崎電気工業は日本リーグ加盟チームの中でもとりわけ、人気選手を使ったスポンサー獲得や広報活動に力を入れている。その活動を一手に担う矢内浩 GM にお話を伺わせて頂いた。

##### 事例2 クラブチーム...広島メイプルレッズ

地元広島の数多くの企業から資金提供を受け、2002年に設立した新しいチームである。財団法人大崎企業スポーツ事業研究助成財団の発行する調査事業報告書を使用し、チームの取組みについて検証した。

2つのチームに共通しているのは、資金が不足しており、試合を開催していくのがやっと、という実態であった。認知度が低いメディア露出機会が少なくスポンサー企業が集まらない

資金が無いと強化ができない 国際競技力が上がらないと認知度が上がらない、という負の

スパイラルに陥っている。また、リーグの試合開催権料や登録料の多いことも資金不足の一因であった。そのため、この項では日本ハンドボール協会の取組みや収支の状況についても触れた。この結果、日本協会と各チームの強化戦略が噛み合っていないことが明らかになった。

#### 【結論】

ホンダハンドボール部については明確な撤退要因を明らかにすることができなかったため、チーム運営のヒントが得られず、不本意な結果であった。ここからは、企業がチームを保有する目的は、消費者など外に向けてのものではなく、依然として社内に向けたものであることが明らかになった。

ハンドボール日本リーグの目下の課題は「強化」であり、そのために日本ハンドボール協会と加盟各チームが協力し、圧倒的に不足している強化費の確保に取り組んでいかなければならないことが分かった。